

# ファン・デ・ナゴヤ美術展2012

# Fan De Nagoya Art Exhibition

2012年1月12日[木] - 22日[日]

名古屋市民ギャラリー矢田 第1~7展示室 【入場無料】

開館時間 | 9:30 ~ 19:00 \*日曜日は17:00まで

休館日 | 月曜日 [16日(月)]

関連プログラム

○アーティスト・トーク | 1月14日[土] 14:00 ~

## 第1展示室 | 緘黙する景色

企画\_伊藤正人

2004-05年 ドイツ・バウハウス大学短期留学

2005年 名古屋造形芸術大学美術学科総合造形コース卒業

2006-08年 オルタナティブスペース (galleryアートフェチ) に所属。

伊藤正人

河田政樹 (多摩美術大学大学院美術研究科絵画専攻修了)

丹羽康博 (愛知県立芸術大学美術研究科博士後期課程彫刻領域在籍)

村田 仁 (名古屋芸術大学大学院美術研究科同時代表現研究修了)

今、この瞬間に私たちがものを考え、目の前の出来事に対して判断を下す時、その一連の思考の経緯には「言葉」というものが常に基軸になって働いています。これはどのような学術分野、また日常生活においても、遙か昔に私たちが言語という記号体系を獲得した時以来、揺らぐことなく共通している方法論です。私たちは言語化をなすまでに少なからず緘黙の中で言葉を巡らせています。どのような言葉であれば目の前の景色、あるいは作品について言い表すことができるのであろうかと。

\* 緘黙 (かんもく) ... 口を閉じて喋らないこと。だんまり。

● <http://beyondwords2012.blogspot.com>

## 第2展示室 | ぶんのせんともものもの ~二人の線が出会うはなし~

企画\_文谷有佳里

愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻卒業

東京芸術大学大学院美術研究科先端芸術表現専攻修了

ライフワークとしてドローイングを制作している。

文谷有佳里

宇田もも (愛知県立芸術大学美術研究科博士前期課程彫刻領域修了)

宇田ももと文谷有佳里が「ドローイング」を展示・滞在制作します。

滞在制作では、ふたりで一枚の紙に描いたり、各々別々に描いたり、お喋りしながら描いたり、ドローイングを切ったり貼ったり... その場でできたドローイングは毎日壁に展示していきます。

感覚のメモとして「物」や形が描かれる宇田のドローイング。

手の動きに任せてリズムカルな「線」で描く文谷のドローイング。

ふたりの線が出会うとき、わくわくすることまちがいなし。

● <http://bsmm2012.exblog.jp>

## 第3・4展示室 | SPOT/IN/CUBE

企画\_近藤佳那子/古畑大気/山下誉子

3人とも善段は個々で制作活動を行っている。また本企画以外にも、愛知県立芸術大学にて同メンバーを中心に発足された学生自主運営スペース「学食二階次元」で、大学内外を繋ぐイベント・展示を企画している。

遠藤俊治 (愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画・版画領域修了)

近藤佳那子 (愛知県立芸術大学美術学部美術科油画専攻4年在籍)

塚本智也 (愛知県立芸術大学油画専攻卒業、東京芸術大学大学院修士課程絵画専攻修了)

花木彰太 (愛知県立芸術大学大学院美術研究科油画・版画領域在籍)

古畑大気 (愛知県立芸術大学美術学部美術科油画専攻4年在籍)

山下誉子 (愛知県立芸術大学美術学部美術科油画専攻4年在籍)

本企画は他人と自分との関係を探る若手作家達のグループ展です。

展示室での作品展示と展示室内に作られた小屋(キューブ)の中での公開制作を行います。作家はキューブ内で共同制作の絵に手を加えていき会期中の完成を目指します。この二つの空間が平行しつつも交わる展示の中、作家と観る人それぞれが他人と共有出来るもの、出来ないもの、その中で自分はどうかを考えます。

## 第5・6・7展示室 | Plants Architecture

企画\_石堀礼子

名古屋造形大学造形学部美術学科総合造形コース3年在籍

自然素材でできた壘(イグサ)を景観とする作品を発表している。

また自然の環境音を用いた空間づくりにも関心がある。

石堀礼子

伊藤大茂 (多摩美術大学大学院美術研究科情報デザイン修了)

井藤雄一 (中京大学大学院情報科学研究科メディア科学専攻在籍)

加藤良将 (中京大学大学院情報科学研究科メディア科学専攻在籍)

茶谷麻里 (名古屋造形大学大学院造形研究科造形専攻修了)

長谷部勇人 (中京大学大学院情報科学研究科メディア科学専攻在籍)

“Plants”は野菜や果物を食べたこと、育てた植物の花が咲いたこと、実が成ったこと。“Architecture”はペンと紙で絵を描くこと、掴み取りたいイメージに向かうそんな過程。“Plants Architecture”の関心事は、自己と他者との相互的なたち。例えば、チョウとハチは花に蜜を求め、花は彼らに受粉の可能性を求めている。ヒトは植物に、食糧や資材、心理的な効果、酸素と二酸化炭素の交換を求めている。けれど植物がヒトに何を求めているのかよくわからない。

● [http://bit.ly/pla\\_arc](http://bit.ly/pla_arc)

## 名古屋市民ギャラリー矢田 | Nagoya Citizens' Gallery Yada

〒461-0047 名古屋市中区大幸南1-1-10カルポート東3・4階

Tel. 052-719-0430 Fax. 052-719-0440

<http://www.bunka758.or.jp>

